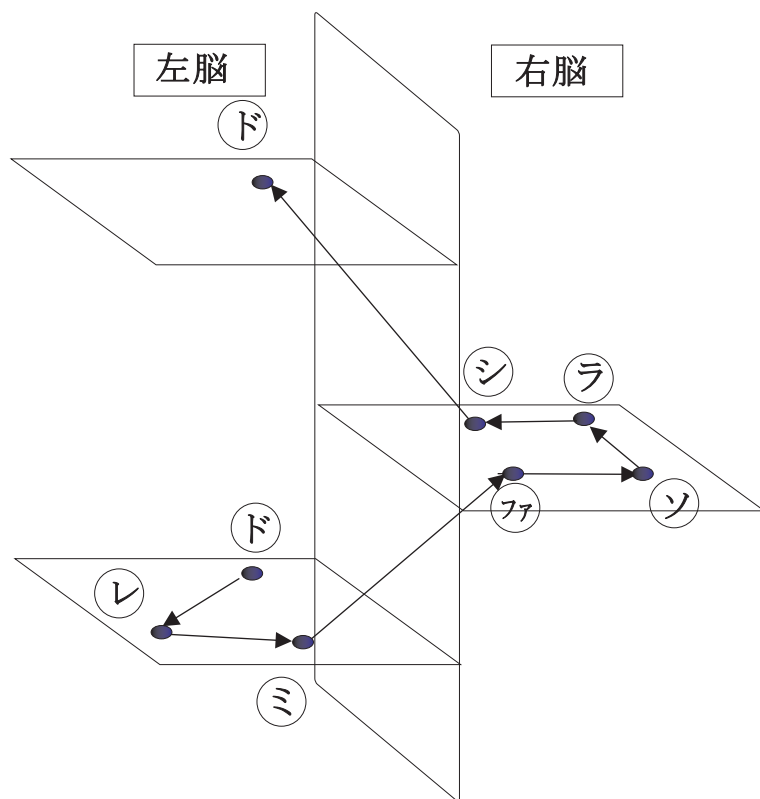
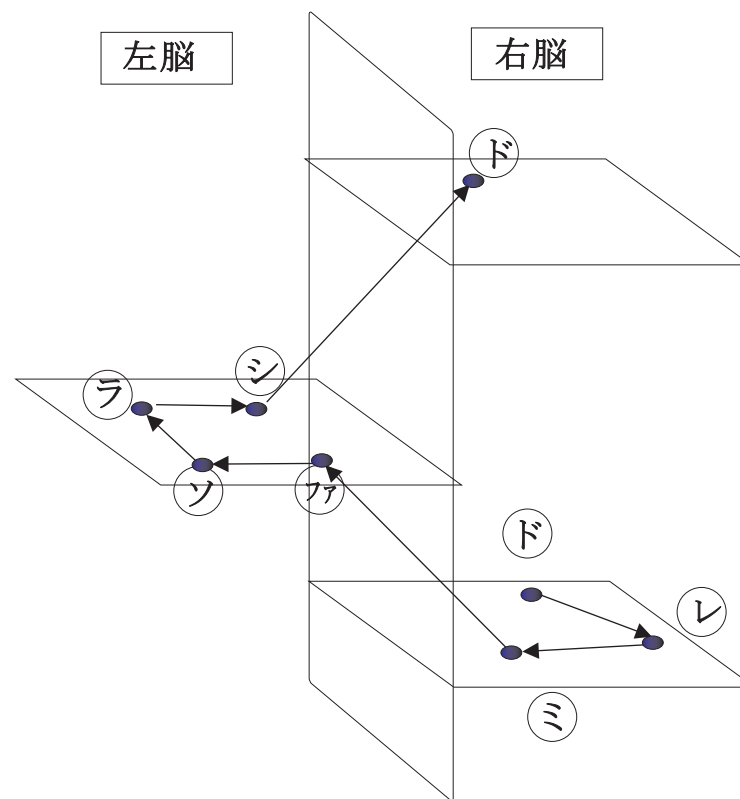


ドレミファソラシドの音階を、左脳、右脳の中で、Aの見方・感じ方、Bの見方・感じ方の2つのやり方で、やってみて比較してみる。どちらの方が、頭の中の感じとよく一致するであろうか。ほとんどの方は、Aの見方・感じの方がぴたりとくるという結果が出ている。

Aの見方・感じ方



Bの見方・感じ方



さて、ドレミファソラシドの間の関係で、ミとファの間と、シとどの間は半音である。このことから、半音は、左脳と右脳を切り替える記号ないしは手段と思われる。そして、ドレミファソラシドは、ステップリストの8段階に対応する。確かに、3段階目の次の4段階目の終わりには、劇的な、帰納アプローチから、演繹アプローチへの、切替がある。

更に、この絵から、左脳の構造は、3か3の倍数の6面体の構造で、右脳は、4もしくは、4の場合数である8面体の構造でできあがっているのではないかという仮説にたどりついている。

以上は、あくまでも仮説であり、今後の参考になるのではないかと考えここに記しておくという次第である。